

ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？

飯山由貴—梅津庸一—遠藤麻衣—小沢剛—小田原のどか—坂本夏子—杉戸洋—鷹野隆大—竹村京—田中功起
辰野登恵子—エレナ・トゥタツチコワ—内藤礼—中林忠良—長島有里枝—パープルーム（梅津庸一＋安藤裕美＋
續橋仁子＋星川あさこ＋わきもとさき）—布施琳太郎—松浦寿夫—ミヤギフトシ—ユアサエボシ—弓指寛治

ENDO Mai

FUSE Rintaro

IYYAMA Yuki

MATSUURA Hisao

MIYAGI Futoshi

NAGASHIMA Yurie

NAITO Rei

NAKABAYASHI Tadayoshi

ODAWARA Nodoka

OZAWA Tsuyoshi

Parplume (UMETSU Yoichi +

ANDO Yumi + HOSHIKAWA Asako +

TSUZUKIBASHI Hitoko + WAKIMOTO Saki)

SAKAMOTO Natsuko

SUGITO Hiroshi

TAKANO Ryudai

TAKE/MURA Kei

TANAKA Koki

TATSUNO Toeko

Elena TUTATCHIKOVA

UMETSU Yoichi

YUASA Ebosi

YUMISASHI Kanji

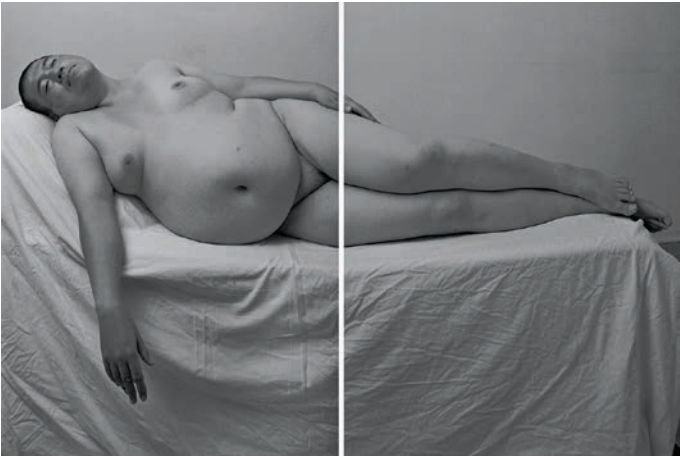
Does
the
Future
Sleep
Here?
Zephyros

89

ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？

—— 国立西洋美術館 65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ

会期：2024年3月12日[火]－5月12日[日] | 会場：企画展示室 | 協賛：NTT ArtTechnology、DNP大日本印刷



1



2



3



4

1 鷹野隆大《Kikuo (1999.09.17.Lbw.#16)「ヨコたわるラフ」シリーズより》1999年 ゼラチンシルバープリント Courtesy of Yumiko Chiba Associates ©Takano Ryudai

2 ギュスターヴ・クールベ《眠れる裸婦》1858年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館

3 小沢剛《帰ってきたペインター F—Painter F Song》2015年 ビデオ、12分8秒 所蔵：森美術館（東京）

4 クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》1916年 油彩、カンヴァス 国立西洋美術館 松方幸次郎氏御遺族より寄贈（旧松方コレクション）

- 5 藤田嗣治《自画像》1926年 複合技法、紙
国立西洋美術館 松方コレクション
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR,
Tokyo, 2023 X0196
- 6 竹村京《Drawing for "Renovated Painting by C.M."》
2023年 ©Kei Takemura (*) 実際の展示作品とは異なります



5



6*

国立西洋美術館——そこは基本的に、遠き異邦の芸術家たちが残した過去の作品群だけが集っている場です。それらは死者の所産であり、生きているアーティストらのものではありません。この美術館にはしたがって、いわゆる「現代美術」は存在しません。しかしこのたび、そんな国立西洋美術館へと、こんにちの日本で活動する実験的なアーティストたちの作品をはじめて大々的に招き入れます。

そうするのには理由があります。国立西洋美術館の母体となった松方コレクションを築いた松方幸次郎は、みずからが西洋において蒐集した絵画などが、未来の芸術家の制作活動に資することを望んでいたといえます。また、戦後に国立西洋美術館の創設に協力した当時の美術家連盟会長、安井曾太郎のような画家も、松方コレクションの「恩恵を受ける」のは誰よりも自分たちアーティストであるとの想いを表明していました。これらの記憶を紐解くなら、国立西洋美術館はじつのところ、未知なる未来を切り拓くアーティストたちに刺戟を与えるという可能性を託されながらに建ったと考えることができます。けれども、国立西洋美術館がじっさいにそうした空間たりえてきたのかどうかは、いまだ問われていません。

「展示室は未来の世界が眠る部屋である」と書き、さらに「未来の世界の〔……〕芸術家は、ここに生まれ育ち——ここで自己形成し、この世界のために生きる」と記したのは、ドイツの作家ノヴァーリスでした。それはヨーロッパに「美術館」と呼ばれる制度が本格的に成立した時期とも重なる、18紀末のことです。本展はノヴァーリスのその言葉を受けとめつつ、はたして「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか?」と問います。これは国立西洋美術館の自問であると同時に、参加アーティストたちへの問いかけです。

ともあれ、ある程度は予想していたこととはいえ、展覧会の準備を進めながらに気づかされるのは、過去の芸術作品のみを所蔵する国立西洋美術館は、いまを生きる気鋭のアーティストたちがかならずしも好んで訪れるところではない——例外は少なからずいらっしゃるとしても——という事実です。ゆえにこの展覧会の課題は、その距離を埋めることでもあります。あるいは、国立西洋美術館やそのコレクションとあらためて向きあっていただくなから、アーティストのみなさんにあらたになにかを考えていただく契機をつくること——それが本展の狙いです。結果として今回の展覧会では、彼ら彼女らから国立西洋美術館にたいして、さまざまな批判的な問いが投げかけられることにもなるでしょう。美術館そのものを多角的に問題化することが、本展の企図にはかなりません。

〔国立西洋美術館主任研究員 新藤淳〕

クイック インタビュー「企画者に聞く！」

展覧会「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」を企画した当館主任研究員・新藤淳が、本展や当館コレクションへの想いを語ります。

Q. 当館65年の歴史において初の現代美術展、その構想に至った経緯は？

A. 国立西洋美術館の開館前史の記憶のなかには、この美術館のコレクションが未来のアーティストたちの制作活動に資することを願ったひとびとの想いがあったのではないかと、長らく考えてきました。そこで、国立西洋美術館やそのコレクションがいまの日本に生きるアーティストたちをじっさいに触発してきたのか、あるいは、そうしうのかを問うような展覧会を、いつの日にか企画できたら、と思っていました。

Q. 従来の企画展と本展を比較し、企画の上でどういった違いがありますか？

A. ふだん国立西洋美術館で展示する作品群は、常設展においてであれ特別展においてであれ、基本的には遠き異邦の死者たちの産物です。いっぽう、今回の展覧会では、さまざまな世代のアーティストのかたがたと対話をしながら準備を進めてゆけることに喜びがあります。

Q. 古い時代の美術と現代美術、どういう心構えでそれぞれを鑑賞すればいいですか？

A. 単一の答えはないと思います。それに、両者を過度に分けて考える必要はあまりないのではないかと考えています。わたし自身は、遠い過去の作品を見つめるときに「現代美術」と呼ばれるものを鑑賞するさいとで、心構えにちがいはありません。

Q. 国立西洋美術館という場所とコレクションからどのような刺激を受けていますか？

A. 国立西洋美術館には、たしかに「西洋」という括りはあるにせよ、さまざまな時代／地域の芸術が集っています。わたしは、それら多種の過去の記憶が渦巻いている場としての国立西洋美術館に惹かれます。たとえば夜空には、それぞれに異なる遠さをもってわれわれの眼に届く、大小の星々の光があります。そして、われわれはそこにしばしば、星座を見出します。国立西洋美術館のコレクションもそれと似て、ひとつとして同一ではない空間的／時間的な距離を経て「ここ」へやってきたものばかりです。そういった作品たちにどのような星座を見出すことができるのか、つねづね考えています。

Exhibitions

真理はよみがえるだろうか：

ゴヤ〈戦争の惨禍〉全場面

会期：2024年2月27日[火]－5月26日[日]

会場：版画素描展示室



フランシスコ・デ・ゴヤ〈戦争の惨禍〉より80番《彼女はよみがえるだろうか？》
1814-15年頃 エッチング、バーニッシャー／紙 国立西洋美術館

〈戦争の惨禍〉は、スペインの芸術家フランシスコ・デ・ゴヤ（1746-1828年）が制作した版画集です。1808-14年に戦われたスペイン独立戦争に取材し、戦いの光景やその中で苦しむ民衆の姿、そして政治風刺を主題としています。ゴヤは、フランス軍の暴挙に対するスペイン民衆の抵抗という図式を超え、戦争という非常事態に生み出される様々な暴挙や愚行を驚くほど冷静に、かつ仮借なく捉えました。人間の抱える深淵なる闇の世界を抉り出している点で、時代を超越した普遍的なメッセージを放つ傑作といえるでしょう。

本連作はゴヤの存命中には公開されず、1863年になってようやく、スペインのマドリッドで80点からなる初版が出版されました。国立西洋美術館は1993年度にその初版を収蔵、以降多くの場を様々な機会に展示してきました。また2017年度には、番号が振られながら初版には含まれなかった未発表作2点も収蔵しています。しかし、これらのうち半数近い37点はこれまでに展示したことがありませんでした。そこで本展では、連作全点と未発表作2点を合わせた計82点を一堂に披露、版画集の全像をご紹介します。

2022年2月にロシアがウクライナに侵攻し、2023年10月にイスラエルとパレスチナの間で軍事衝突が勃発したことは周知のとおりです。ゴヤが銅版に刻んだ、時に目を逸らしたくなるような悲劇は、遠い昔の出来事ではなく、我々のアクチュアルな問題でもあるのです。真理や真実、正義が歪められ、文明の闇が露呈した時、我々は何をすべきなのか、根源的な問いを投げかける作品と向かい合ってみたいと思います。

[国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介]

動画で楽しむ！西美のコレクションと展覧会

当館の公式YouTubeチャンネルでは、所蔵コレクション・作品、展覧会を紹介する動画を配信しています。

昨年新たにはじまったシリーズ「Chat Room SEIBI」は、専門が異なる当館研究員たちが、テーマごとにおしゃべり(chat)し、特定の作品を紹介するコンテンツです。本シリーズ第一弾として、「スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた」(2023年9月閉幕)の展示作品に関する対談動画を公開しています。

このほか、小企画「版画で『観る』演劇」展(2023年1月閉幕)関連イベントである演劇パフォーマンスの収録映像をはじめ、小企画「橋本コレクション展」(2023年6月閉幕)、企画展「パリ ポンピドゥーセンター キュビズム展」(2024年1月閉幕)と小企画「もうひとつの19世紀」展(2024年2月閉幕)の関連動画を配信中です。



Exhibition Highlights | Pt.1 ホアキン・ソローリャ《水飲み壺》『スペインのイメージ』展ハイライト

加えて、当館コレクションを研究員が解説する「国立西洋美術館コレクション紹介」(全6本)では、各コレクションの形成史からその多様な作品の数々まで余すことなく紹介しています。全19本に及ぶ「国立西洋美術館 ギャラリートーク」は、常設展でおなじみの作品について数分で学べるシリーズです。

また、「国立西洋美術館 建築オンライン・レクチャー」(全3本、配信終了日:2025年1月31日[金])と「Behind the Painting 〜絵画の背後〜」(全5本、配信終了日:2026年2月27日[金])は、当館の建築と所蔵作品の知られざる一面や魅力を浮き彫りにする対談動画シリーズです。

当館について深く知る、展覧会の予習・復習など、様々な目的に応じて気軽に楽しんでいただけるラインアップです。ぜひご覧ください。

[国立西洋美術館特定研究員 浅野菜緒子]

国立西洋美術館 公式YouTube チャンネル

@NMWATokyo

<https://www.youtube.com/channel/UCFtBgJ1ArMLvcpQeT2vNupQ>

UCFtBgJ1ArMLvcpQeT2vNupQ



動画シリーズ「Chat Room SEIBI」より「スペインのイメージ」展ハイライト
(ホアキン・ソローリャ《水飲み壺》、2023年8月9日配信)

6期ボランティア・スタッフ 活動デビュー！



研修期間を終えた6期ボランティア・スタッフが春から活動デビューします。当館では3年ごとに新たなボランティア・スタッフをお迎えし、6年間の任期で活動しています。はじめの約10ヶ月間はボランティア候補生として、当館の概要、コレクション、建築、トークに関する研修を受け、候補生同士のトーク練習やディスカッションをとおしてプログラムの参加者にどのような体験を提供できるのかみんなで考えながら活動に向けた準備をしてきました。これからは、来館者と一緒に美術館を楽しみ、子どもから大人までさまざまな人たちと美術館を繋ぐボランティア・スタッフとして、それぞれの担当に分かれて活動していきます。

2004年に始まった当館のボランティア活動は今年で20年目を迎えました。美術館での活動がボランティア・スタッフ自身の学びの場となることも大切に、年齢やバックグラウンドも多様なボランティア・スタッフが熱意とホスピタリティで当館の活動を支えてくれています。

より多くの方に美術館を楽しんでいただけるよう、ボランティア・スタッフによるさまざまなプログラムをご用意してお待ちしています。みなさま、どうぞ参加ください。

[国立西洋美術館教育普及室 長谷川暢子]

ボランティア・スタッフによるプログラムの詳細は

当館ホームページをご覧ください。国立西洋美術館「ボランティア」



[CAFÉ すいれん]

営業時間：10:00-17:30（食事11:00-16:45 | 喫茶10:00-17:15）／金・土曜日10:00-20:00（食事11:00-19:10 | 喫茶10:00-19:30）

[ミュージアムショップ]

ワシリー・カンディンスキーの版画の小さなプレートは、テーブルや棚に置いておくだけでも目に楽しい商品です。

カンディンスキーの連作版画作品『小さな世界』（1922年）から、リトグラフ、木版、エッチングの3柄を選びました。ひとつでも、いくつか組み合わせても、空間の印象を変える存在感があります。

プレートの素材は、貝殻と同じ成分である石灰を原料にした二酸化炭素を吸収することで固まる新型セラミックスです。環境にも配慮したこの素材は、吸湿性に富むため、コースターとしてお使いいただくのもおすすめ。水滴がしみ込んでも跡が残らないのが嬉しいところです。



オンラインショップ
<https://www.nmwatokyo-shop.org>



ミュージアムショップ公式 Instagram
@nmwatokyo_shop



画像左から
スクエアプレート
ワシリー・カンディンスキー
《小さな世界Ⅰ》リトグラフ、《小さな世界Ⅴ》木版、
《小さな世界Ⅸ》エッチング
各1,540円（税込）
サイズ：たて×よこ×高さ 7.6×7.6×0.7cm
材質：石灰（主成分 炭酸カルシウム、二酸化珪素）、
紙パッケージ入り
（同じ素材でル・コルビュジエのスケッチや
彩飾写本の柄の商品もご用意しています）

展示カレンダー [企画展示／常設展示] 2024年2月－5月

2月 [Feb.]	3月 [Mar.]	4月 [Apr.]	5月 [May]
常設展			
全館休館	全館休館		全館休館
[小企画展] →2月12日[月・休] もうひとつの 19世紀	2月13日[火] ↓ 2月26日[月]	[小企画展] 2月27日[火]－5月26日[日] 真理はよみがえるだろうか：ゴヤ〈戦争の惨禍〉全場面 [企画展] 3月12日[火]－5月12日[日] ここは未来のアーティストたちが眠る部屋と なりえてきたか？—— 国立西洋美術館65年目の自問 現代美術家たちへの問いかけ	
			5月27日[月] ↓ 5月30日[木]

[開館時間] 9:30-17:30（毎週金・土曜日 9:30-20:00）＊入室は閉室の30分前まで

[休館日] 月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替え期間、

年末年始、臨時休館日

[臨時開館・展示替え休館のお知らせ]

臨時開館：2024年3月25日[月]、4月30日[火]

展示替え休館：2024年2月13日[火]－2月26日[月]、5月27日[月]－5月30日[木]

[常設展無料観覧日] 2月11日*、3月10日*、4月14日*、5月12日*、5月18日（国際博物館の日）

（*当館オフィシャルパートナー・川崎重工業株式会社の提供による「Kawasaki Free Sunday」（原則毎月第2日曜日））

＊展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式ホームページをご確認ください。

[常設展]

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

 国立西洋美術館
The National Museum of Western Art
[東京・上野公園]

国立西洋美術館
〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
公式ホームページ <https://www.nmwa.go.jp/>
お問合せ 050-5541-8600（ハローダイヤル）



[国立西洋美術館 SNS 公式アカウント]
X @NMWATokyo
Facebook @NationalMuseumofWesternArt
Instagram @NMWATokyo